

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第13号

令和5年3月
和歌山県
長寿社会課

生活支援コーディネーター取組事例紹介 那智勝浦町「SCの“つながる・つなげる”役割」

那智勝浦町では、岩本さんが第1層の生活支援コーディネーターとして活躍されています。岩本さんは那智勝浦町社会福祉協議会からの出向で以前から町地域包括支援センターで勤務しており、令和元年度から生活支援コーディネーターをされています。



生活支援CD 岩本さん

那智勝浦町では、令和元年に「支え合いのまちづくりフォーラム」を開催し、その後は各地域で協議体会議や勉強会を通して「住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」を進めていました。しかし、コロナ禍により中断。岩本さんは、コロナ禍でもできる取組として、できるだけ地域に出ていき、既存のつながりを活用した取組を進めています。

今回、岩本さんの生活支援コーディネーターとしての1日に密着取材させていただきましたので紹介します。

生活支援コーディネーターにける想い・信条

ココがすごい！

岩本さんは「生活支援CDとしての仕事の一つは「つなげる役割」だと思っています」とおっしゃいます。まずは自分が地域の方々とつながり、そして地域の取組を皆に知ってもらい、必要とされている方や興味のある方とつなげていくことで、支え合える地域、関係をつくっていききたい。とのこと。

地域に出ていき“つながる”、役場や地域同士を“つなげる”

岩本さんの活動取材させていただいたところ、岩本さんは、まず地域に出ていき様々な方と“つながる”ことをされていました。そして、つながった方々を何度も訪問することにより聞いた情報を関係機関等と共有したり、他の地域の方々に伝えることで、それらを“つなげる”役割をされていました。岩本さんは、それらをライフワークとも言える形でこなし、使命感を持ちながらも、無理をしない範囲でご自身のペースを作り、活動されていました。詳しくは次ページ

地域のお宝報告会の開催

那智勝浦町では令和5年3月に「地域のお宝報告会」を開催しました。「地域のお宝報告会」は、町社会福祉協議会が開催する「福祉健康まつり」の一環として開催され、生活支援コーディネーターである岩本さんから、地域のお宝として、サロンや共同農園、喫茶店、ビーチバレーや体操サロン等の通いの場の取組が紹介されました。



お宝報告会の様子

お宝報告会への想い

町担当者の榎本さんにお宝報告会開催の目的をお聞きしたところ、「つながり作りには通いの場が重要。通いの場でつながりができ、継続して通い、その関係をより深めることで、地域で支え合って暮らしていけるようになる。紹介した通いの場の方たちには、通いの場の持つ社会的意義を改めて知ってもらい「今後も続けていこう」と思ってもらえればと思う。また、見た人が「こんなやつたら自分達もできるよな」と思って新たな通いの場の創出につながれば良い、と考えている」とのことです。

岩本さんは「以前からある通いの場や、この数年のうちに生まれた新たな通いの場など、多くの通いの場を皆さんに知ってもらえてよかった。来年度も開催することが出来れば、今度はご本人さんに喋ってもらいたい。その方が楽しさが伝わると思うんです！」とおっしゃっていました。



岩本さんが作成した通いの場を紹介するパネル

県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521



岩本さんの“つながる・つなげる”活動！

取材をした日は、いくつかの通いの場を訪問し、そこで聞いたこと等について、どのような内容だったかを社会福祉協議会や役場で共有する、といった一日でした。
なお、今回紹介しきれませんが、この日は下記以外にもいくつかの通いの場等を訪問しました。

役場と地域を“つなげる”

初めに訪問したのは、体操サロンの「元気になろう会」です。

まず岩本さんがしていたことは「役場からのお知らせ」でした。役場では様々な部署から住民の方にお知らせしたいことが出てきます。岩本さんは、これらを取りまとめて、集いの場で連絡するつなぎ役をされていました。この日は消費生活センターからのチラシを配布し、その内容について皆さんとお話されていました。

また、住民の方々からも岩本さんに様々な相談をされていました。

その一つに「近所の方が認知症かもしれないので、ちょっと寄ってあげて」という相談がありました。岩本さんは「行ってみますね！」と答え、住民の方は安心されていました。この後、役場に戻ったら地域包括支援センターの皆と共有して対応するとのことでした。



体操教室での交流の様子

お互いさまで“つながる”

次の訪問先は、地域の方々が集まり花を育てている「下里ともこガーデン」。

岩本さんは、以前、認知症関連の取組としてオレンジ色の花を育てる際、育て方がわからず、いつも綺麗な花を育てている様子を見かけていた「下里ともこガーデン」の皆さんに相談したそうです。結果、とても綺麗なオレンジ色の花を育てることができたそうで、皆さんに感謝されていました。また、「下里ともこガーデン」代表の岩本さんも、「SCの岩本さんは、ここが通いの場として補助金の対象となると教えてくれた。私達に光を当ててくれた。」と感謝されていました！



ガーデンでの交流の様子

様々な形の通いの場と“つながる”

二河地区では、老人クラブのメンバーが中心となり、地域の方々と一緒に野菜を育てる活動「陽だまりファーム」をされています。代表の南さんによると「地域のひとり暮らしの方が孤食にならんように、作ったものを一緒に食べたいね、と考えたのがきっかけ。たくさん獲れるようになり今は近くの小学校にも寄付している。名前は知らないけど隣の畑の方も知り合いですよ」とのことです。

この日はちょうど大根の収穫をしているところで、一緒に収穫しました。岩本さんは「天気に応じて必要な用具を用意する役割の人がいたり、お互い気に掛けあったり。通いの場としての農園もあるんだと気づかせてもらった」とおっしゃっていました。



代表の南さん

情報共有して“つなげる”

通いの場を訪問した後、岩本さんは社会福祉協議会に寄り情報共有されていました。岩本さんにとっては社協のなかまということもあり、とてもフランクな様子の打合せでした。

最後は役場に戻り、町の担当者や地域包括支援センターの職員と情報共有を行ったところで、一日密着の取材を終了させていただきました。

情報共有については、こうした日々の打合せの他、月2回の定例会を実施しており、役場、社協、SCで活動の報告と今後の取組について話し合われているとのことでした。

町担当の榎本さんに町の目指すところを聞いたところ「地域包括ケアシステムとして、住み慣れたところで暮らし続けられるような環境づくりが必要であり、今後は第3層のような位置づけの協議体を作っていくのが目標です」とのことです。



社協での情報共有の様子



役場での情報共有の様子

お仕事を終えて ～プライベートにて～

岩本さんは、プライベートにおいてもつながりづくりをかせしません。ご自身で作成している通信「つながりカフェ」の発行やSNSでのやりとりを通して、全国での生活支援コーディネーター等と情報交換を行っているとのことでした。また、東牟婁地域では串本町の生活支援CDが発起人となり、管内各市町村の生活支援CD間でライングループを作成され、情報交換されています。岩本さんは、「気軽に近隣市町村と情報交換できるのでとても嬉しい！」とのことでした。